

授業要項

令和8年度

科目名	地域作業療法学 演習			担当者	長屋 政博 渡辺 崇史 石井 隆司 友渕 可乃子 棚瀬 智美 水野 準也				
学年	3	学期	前期	学科	作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	<p>○地域リハビリテーションを考える上で必要な事項を学び、地域リハビリテーション、介護予防の現状を知る。</p> <p>○住環境整備論</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援および社会参加を促すためのスイッチの適合方法について、製作改造実習を通して理解する。 住宅改修を考える際に必要な建築知識を習得することを目標に、建築の基本構造、設備の基本知識を学ぶ。 また、在宅生活を目標にリハビリ計画を立てる際に、自宅の現況の把握の重要性と実測調査のポイントを学ぶ。 障害別(片麻痺/脊髄損傷/RA/SCD)の環境整備の考え方を整理し、理解することができる。 <p>○作業療法を通じた国際協力について知る。</p>							
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者	
	1	地域リハビリテーションと介護予防の現状	地域リハビリテーションの流れ、現状を理解する。具体的な介護予防を理解する。					長屋 政博 (3h)
	2	・スイッチの適合に関する基礎知識 ・操作スイッチの製作実習 ・BDアダプタの製作とおもちゃの改造実習	・スイッチ適合に関する基礎知識を理解する。 ・基本的なスイッチの製作ができる。 ・乾電池を使った機器等を身体機能に合わせて活用するための、基本的な改造ができる。					渡辺 崇史 (4h)
	3	①リハビリテーション総合実施計画書 ・入院時訪問指導に係わる評価 ・退院時訪問指導 ②現況図の見方、作成のポイント ③建築構造基礎 ④建築内部仕上基礎 ⑤建築設備基礎	①リハビリテーション計画を立てる上で必要な退院後の住環境、家屋構造について基本的な考え方を理解する。 ②現況図の見方と現地実測図の作成のポイントを理解する。 ③木造住宅の造り方と構成を理解する。 鉄筋コンクリート造マンションの造り方と構成を理解する。 ④木造住宅の床の構成を理解する。 木造住宅の壁の構成を理解する。 鉄筋コンクリート造マンションの床の構成を理解する。 鉄筋コンクリート造マンションの壁の構成を理解する。 ⑤木造住宅の給排水設備を理解する。 鉄筋コンクリート造マンションの給排水設備を理解する。					石井 隆司 (3h)
	4	作業療法を通じた国際交流	作業療法を通して、諸外国と交流できることを知る。 青年海外協力隊(ルーマニア)の活動 日本作業療法士協会国際部の紹介					友渕 可乃子 (2h)
	5	脊髄損傷におけるADLと住環境整備	脊髄損傷のレベル別ADLと住環境整備について理解し説明することができる。					棚瀬 智美 (25h)
	6	症例検討(障害を持った高齢者)	症例の生活障害に合った住環境整備プランの作成と介護保険等の社会資源を活用した生活方法を提案し、説明することができる。					
	7	施設見学	施設見学を通して、障害者総合支援法関連施設や障害者職業センターについて施設の役割や概況、施設概要について知識と理解を深めることができる。 見学した内容について発表を行い、他施設の概要や役割について知識や情報を共有することができる。					水野 準也 (8h)
授業形態	講義、グループワーク、発表など							
教科書	配布資料							
参考書	適宜紹介する。							
評価方法	筆記試験(25点)と提示症例に対する課題シートの到達度(30点):棚瀬(55点) レポート、感想文、発表等:長屋(7点)、渡辺(9点)、石井(7点)、友渕(4点)、水野(18点)							
授業時間外の学習	石井:講義終了後にテーマに沿ったレポートを作成し提出。また、実測演習の課題を提出。							
履修上の留意点	石井:身体の障害がある者に対して家屋評価は欠かせない。原点は家屋の調査から始まる。調査ノウハウとその基本についての理解が重要である。 渡辺:乾電池(単3形か単4形)で動くおもちゃを各自用意してください(全員)。							
担当者の実務経験	病院勤務および対象者支援に関する実務経験あり							

授 業 要 項

令和8年度

科目名	身体障害作業療法治療学演習Ⅱ			担当者	平松 敦子				
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	身体障害分野の対象者に対する作業療法の特性を生かした治療・指導・援助の実践における理論や注意点を理解する。また、模擬症例を通して対象者の全体像を把握し、焦点化、目標設定を行った上で、治療計画の立案まで行う過程を理解を深める。							
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者	
	1 臨床思考過程の理解 (目標設定・治療計画)	身体機能分野の作業療法の枠組みにおいて、問題点の整理、目標設定、治療計画の考え方を理解する。					平松 敦子 (45h)	
	2 治療理論の理解と治療実践	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害分野の治療理論について理解する。 ・症例を通して、治療計画までの臨床思考過程について理解する。 ・症例を通して、治療プログラムの実施体験を行う。 						
	3 症例検討①(脳血管障害)	患者情報の検討～治療計画立案まで実施する。						
4 症例検討②(他疾患)	患者情報の検討～治療計画立案まで実施する。							
授業形態	講義、演習(症例検討・文献抄読)、グループ討議および発表							
教科書	メディカルスタッフのための神経内科学(医歯薬出版) 身体障害作業療法学ゴールドマスターテキスト(メジカルビュー) 病気がみえる 脳・神経 循環器、呼吸器(メディックメディア) 標準作業療法学 身体障害作業療法学第4版(医学書院)							
参考書	脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで(医歯薬出版)							
評価方法	症例ごとの課題の提出と到達度で採点							
授業時間外の学習	授業前には関連科目の復習を行い、授業後には行動目標が達成できるよう復習を行うこと。							
履修上の留意点	既習内容を十分に確認して授業に臨むこと							
担当者の実務経験	病院で身体障害の作業療法に従事							

授 業 要 項

令和8年度

科目名	作業療法特論			担当者	棚瀬 智美 水野 準也 平松 敦子				
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や国家試験に向けて、今まで学習した内容をもとに、疾患学や治療学につながる専門基礎分野(解剖学および生理学)に関する知識の整理をすることができる。 ・担当教員によるグループ別学習や資料作成を通して、内容を理解することができる。 								
授業計画	テーマ			授業内容 [行動目標]				担当者	
	解剖学・生理学 (実習後セミナー) I.筋生理 II.自律神経・内分泌 1 (作業療法特論) III.中枢神経・脳神経(15h) IV.消化吸収(8h) V.泌尿器(7h)			解剖学・生理学に関する基礎知識を整理・学習し、理解することができる。				棚瀬智美 水野準也 平松敦子 (30h)	
授業形態	教員による学習ポイント提示、グループ学習、個別資料作成など								
教科書									
参考書	適宜								
評価方法	筆記試験:100点(中間テスト50点:テーマ I II III、期末テスト50点:テーマIII IV V)								
授業時間外の学習	国家試験対策で活用できる資料作成をすすめていく。学習の状況によっては土曜日に実施する教員レクチャーや個別学習を通して理解を深めていく。これまでに学習した授業資料を活用しながら、解剖学・生理学を中心とした基礎知識の学習をこまめに行うこと。								
履修上の留意点	授業では実習や国家試験に向けて、今までに学んだ知識の整理を行う。国家試験対策の学習時に活用できるように、各自主体的に資料作成をし、理解を深めるために学習を行うこと。本授業においては、解剖学・生理学に関する基礎知識の理解を到達レベルとするため、各自が主体的に取り組むこと。								
担当者の実務経験	病院での作業療法に従事								

授 業 要 項

令和8年度

科目名	作業療法研究法				担当者	藤部 百代			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	1. 作業療法士が行う研究方法を学ぶ。 2. 研究を行う上で基本的な手続きを理解し、それをグループで実施する。 3. 学んだ知識を用いて、実際にグループで研究テーマを決め、データを分析し論文を完成させる。 (卒業論文として完成させ製本する)								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者		
	1 「研究」について(総論)	研究の目的や意義を理解することができる。 研究の種類・分類について理解することができる。 研究の流れを説明することができる。 研究疑問について理解することができる。 研究計画の立案から計画書作成、実験の実施、報告および発表における留意点を理解できる。 研究のデザインについて理解することができる。					藤部 百代 (8h)		
	2 研究計画書・インフォームドコンセント・研究同意書について	研究計画書の作成方法を理解および説明することができる。 インフォームドコンセントについて理解することができる。 研究同意書の作成方法を理解および説明することができる。							
	3 研究計画書 作成	研究計画書のモデルをもとに構成を理解する 各グループで研究計画を立案し発表することができる。					藤部 百代 (2h)		
	4 研究の実施	グループで作成した研究計画にそって研究を実施できる 研究結果を整理し、分析することができる					藤部 百代 (10h)		
	5 研究の報告	研究の実施・分析・考察を踏まえ発表することができる					棚瀬智美 水野準也 濱川麻美 平松敦子 藤部百代 (2h)		
	6 論文の作成	発表に対しての助言を加味しながら論文を作成することができる					藤部 百代 (8h)		
授業形態	講義およびグループ討議を主とする。学習資源としてパワーポイントを使用する。								
教科書	作業療法士のための研究法入門 鎌倉矩子 他 三輪書店								
参考書	適宜紹介する。								
評価方法	文献レビュー:10点 発表および研究結果の提出とその内容;90点								
授業時間外の学習	本授業をもとに、事業時間外でもグループで討議し、主体的に進めることを望む。								
履修上の留意点	グループで研究を実施する。その結果を卒業論文として完成することが課題である。なお卒業論文を発表する機会を持ち、プレゼンテーションを実施する。グループ内で合意形成しながら研究を進めること。								
担当者の実務経験	病院での作業療法に従事、研究活動の実務経験あり								

授 業 要 項

令和8年度

科目名	精神障害作業療法治療学演習Ⅱ				担当者	榊原 崇記 水野 準也			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	精神科作業療法における特性を理解し、把握できる。 精神科作業療法における評価技術について、演習を通して習得することができる。 精神科作業療法の一連の流れ(臨床思考過程)を経験できる。 医療観察法・地域生活支援の作業療法について理解できる。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者		
	1 精神障害分野の作業療法の流れ 治療計画立案 精神障害分野の特性 治療構造の理解と把握 (内容、自己の治療的活用、 集団など)	治療計画の項目とその詳細(作業、OTRの関わり方、集団、場所、時間・頻度・期間)を理解することができる。 精神科作業療法の治療構造を理解することができる。 作業療法プログラムの治療構造を把握し、ワークシートに記録をすることができる。					水野 準也 (14h)		
	2 対象者の観察演習	視聴覚教材を用いて、対象者の様々な場面(面接、パラレルOTなど)を観察し、ワークシートに記録をすることができる。対象者の観察を通して、対象者の特徴について考える体験をすることができる。							
	3 作業面接を通じた評価技術演習	参与観察の体験として、作業面接を通して、対象者の作業場面の観察をし、ワークシートに記録をすることができる。対象者の観察を通して、対象者の特徴(作業遂行能力など)について考える体験をすることができる。							
	4 精神障害者の全体像の把握および 臨床思考過程	症例検討を通して各領域における作業療法の実際を学び、一連の流れ(評価～作業療法のアプローチ)を理解することができる。					水野 準也 (12h)		
	5 医療観察法における作業療法の実際	医療観察法の流れや多職種連携をふまえて、医療観察法における作業療法の目的や治療について理解することができる。					水野 準也 (2h)		
	6 地域生活支援の実践 ACT支援の実際	ACT支援における取り組みの実際を知り、地域生活を送る精神障害者に対する作業療法士の役割について理解することができる。					榊原 崇記 (2h)		
授業形態	講義、演習(観察・面接・症例検討)、グループワークおよび発表								
教科書	精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 新版(三輪書店) 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学(第3版)(メジカルビュー社)								
参考書	富岡 詔子・小林 正義：作業療法学全書 改訂第3版 作業治療学2 精神障害 標準作業療法学専門分野 精神機能作業療法学								
評価方法	榊原:レポート(7点)、水野:レポート等提出物(93点)								
授業時間外の学習	既習の関連科目で使用したプリントに目を通すなど30分程度の事前学習を行い、演習後は配布資料や教科書をもとに課題に取り組むこと。症例検討では発表にむけたレジュメの作成を行う。								
履修上の留意点	作業療法評価学Ⅱ、精神障害作業療法評価学、作業療法評価学演習、精神障害作業療法治療学、精神障害作業療法治療学演習Ⅰで学んだ内容をもとに授業が展開されることを念頭において臨むこと。また、臨床実習を想定して、各演習に臨むこと。								
担当者の実務経験	病院で精神障害領域の作業療法に従事								

科目名	高次脳機能障害作業療法治療学				担当者	横井 淳史 濱川 麻美			
学年	3	学期	前期	学科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	高次脳機能障害の基本的概念・臨床像を踏まえた上で、評価および介入方法について学ぶ。 失語症を理解するために必要な基礎的な神経心理学的知識を踏まえた上で、失語の症状、失語症候群、 評価および介入方法について学習する。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 高次脳機能障害とは	<ul style="list-style-type: none"> 高次脳機能障害の基本的概念と対象疾患・障害について説明できる。 高次脳機能障害の評価について基本的な考え方を説明できる。 高次脳機能障害の治療について基本的な考え方を説明できる。 						濱川 麻美 (27h)	
	2 注意障害について	<ul style="list-style-type: none"> 注意障害の定義・分類について説明できる。 注意障害の評価について説明できる。 注意障害の訓練の基本原則について説明できる。 							
	3 記憶障害について	<ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の定義・分類について説明できる。 記憶障害の評価について説明できる。 記憶障害の訓練の基本原則について説明できる。 							
	4 失行について	<ul style="list-style-type: none"> 失行の概念・症状・分類について説明できる。 失行の評価内容と手順を説明できる。 失行の訓練の基本原則について説明できる。 							
	5 失認について	<ul style="list-style-type: none"> 失認の概念・症状・分類について説明できる。 失認の評価内容と手順を説明できる。 失認の訓練の基本原則について説明できる。 							
	6 半側空間無視について	<ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の定義・症状について説明できる。 半側空間無視の評価内容と手順を説明できる。 半側空間無視の訓練の基本原則について説明できる。 							
	7 遂行機能障害について	<ul style="list-style-type: none"> 遂行機能障害の定義・分類について説明できる。 遂行機能障害の評価について説明できる。 遂行機能障害の訓練の基本原則について説明できる。 							
	8 社会的行動障害について	<ul style="list-style-type: none"> 社会的行動障害の定義・分類について説明できる。 社会的行動障害の評価について説明できる。 社会的行動障害の訓練の基本原則について説明できる。 							
	9 症例検討	症例を通し、高次脳機能障害像を理解し説明することができる。 症状に合わせた評価方法を選択することができ、症例の障害像やアプローチ法を説明することができる。							
	10 成人コミュニケーション障害の概論	成人における他のコミュニケーション障害と失語症との違いについて理解する。						横井 淳史 (3h)	
	11 失語症の言語症状、下位タイプ、評価方法について	失語症の症状、下位タイプを理解し、評価方法を学ぶ。							
	12 失語症患者とのコミュニケーションについて	失語症患者とのコミュニケーション方法を学び、その工夫について考える。							
	13 国家試験対策	失語・高次脳機能領域の解説(脳画像を含む)							
授業形態	講義、演習								
教科書	標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学(医学書院)								
参考書	作業療法学全書 作業治療学5 高次脳機能障害(協同医書) 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト高次脳機能障害作業療法学(MEDICAL VIEW)								
評価方法	期末試験(筆記試験);濱川 90点 レポート;横井 10点								
授業時間外の学習	配布資料を事前に読んでおくこと。								
履修上の留意点	症状－評価－介入を、結びつけながら理解するように努めること。								
担当者の実務経験	病院で身体障害領域の作業療法および言語療法に従事								

授 業 要 項

令和8年度

科目名	義肢装具学 演習				担当者	奥村 修也 三重野 高広 鈴木 隆英 小澤 義直 内藤 了彰			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	<p>義肢装具の基本構造と目的を理解した上で、疾患別の装具やスプリントの適応について学ぶ。 上肢切断者の義手の評価及びリハビリテーション訓練(身体計測、種類、名称と構造、操作方法、職場復帰などに関して)について学ぶ。 手の治療に使用するスプリントの作製手順を理解し身につけ、スプリントを使用する適応や目的についても学習を深め、手の機能・疾患・障がいの見識を深める。</p>								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者		
	1 疾患別主要装具・スプリント	疾患別(末梢神経損傷、関節リウマチ、脳血管疾患、脊髄損傷、熱傷、腱断裂、骨折、体幹固定装具)などの主要装具の目的や適性を理解することができる					棚瀬 智美 (6h)		
	2 上肢切断者の評価、義手装着訓練	切断者のリハビリテーションの意味、義手使用の目的を理解する。					三重野 高広 (6h)		
	3 能動義手の訓練	能動義手の種類の名称・構造・装着方法、一般的な操作の仕方、ADL、職場活用を理解する。							
	4 筋電義手の訓練	筋電義手の種類の名称・構造・装着方法、一般的な操作の仕方、ADL、職場活用を理解する。							
	5 能動義手評価(チェックアウト)演習	能動義手評価としてデモ義手装着し、チェックアウトを行い、意味、方法を義手の構造の理解とともに深める。							
	6 臨床におけるスプリントの使用と療法について	臨床でスプリントがどのように使用されているか、その意義や目的を踏まえてを提示する。					奥村 修也 (16h)		
	7 基本的なスプリントの作製手技の紹介(導入)	直接法(ピンチ法・ドレープ法)によるスプリント作製のデモンストレーションを行い作製上の要点・注意点を示す。							
	8 スプリント作製(演習)	スプリント作製を実際に行い、基本的な手技を身につける。							
	9 スプリントの評価・効果・適応について	作製したスプリントが機能的で目的達成できているかなどの基本的なチェックポイントを示し、かつ装着による効果について確認する。							
	10 義手/筋電義手デモ	義手の種類を学ぶ。筋電義手ユーザーのDEMO見学。					小澤 義直 内藤 了彰		
授業形態	講義、見学、演習、実技実習、グループ討議など								
教科書	義肢装具学(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト) メジカルビュー社								
参考書	義肢装具のチェックポイント 第8版 医学書院 義肢装具と作業療法 ～評価から実践まで～ 医歯薬出版 ハンドセラピー 第2版 作業療法学全書[改訂第3版] 第9巻 作業療法技術学1 義肢装具学 協同医書出版社 切断と義手第2版 医歯薬出版株式会社 医歯薬出版株式会社 義肢学 第3版 日本義肢装具学会								
評価方法	筆記試験: 棚瀬(20点) レポート: 奥村(55点) (座学や演習(チェックアウト)、対象者との面談などを受けての感想文): 三重野・鈴木(25点)								
授業時間外の学習	三重野・鈴木: 義手の訓練、各部品の名称と役割を理解しておく。 奥村: 酒井医療ホームページ動画視聴 (https://www.sakaimed.co.jp/knowledge/hand-therapy/splint/splint02/)								
履修上の留意点	棚瀬: 2年次に学習した各疾患のOTについて復習しておく。 三重野・鈴木: 義手の基礎的な構造を理解した上で授業を進めるため、履修前に復習しておく。								
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事、病院勤務による実務経験あり、当事者								

授業要項

令和8年度

科目名	高齢期作業療法治療学演習			担当者	山内 正美 武田 一貴	平塚 典子 棚瀬 智美			
学年	3	学期	前期	学科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	<p>高齢期作業療法のプロセスを理解し、高齢期の特徴に応じた支援内容について学ぶ。 認知症高齢者の障害像を理解し、その人らしさを引き出し活用するアプローチ方法についての知識を身につける。 摂食嚥下の機能及び障害に関する基本的事項、評価や検査、訓練について理解し、摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、OTとしてどんな介入方法があるのか基本的知識を身につける。</p>								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者		
	1 病期や実施場所に応じた治療・援助内容の違い	予防期・急性期・回復期・維持期・終末期の時期に応じた治療・援助内容を理解し説明することができる 医療保険・介護保険制度による施設に応じた治療・援助内容を理解し説明することができる							
	2 介護予防の作業療法	介護予防の定義や概念について理解し説明することができる 健康増進と介護予防における違いを理解し説明することができる 介護予防における作業療法の支援について理解し説明することができる							
	3 認知症高齢者	認知症を取り巻く社会の歴史と背景について理解し説明することができる 認知症の定義と診断基準について理解し説明することができる 認知症の症状や治療について理解し説明することができる 認知症の評価スケールを列挙し内容を説明することができる 疾患別概要と作業療法との関連について理解し説明することができる 認知症に対する作業療法の介入と援助について理解し説明することができる					棚瀬 智美 (24h)		
	5 症例検討(認知症)	症例を通し、認知高齢者の障害像を理解し説明することができる。 症例の障害像や人となりに合わせたアプローチ法を考え、その効果について理解し説明することができる。							
	6 介護老人保健施設とOTの役割	介護老人保健施設の実際について、施設の役割や概況、施設概要について知識と理解を深めることができる。 老人保健施設での作業療法士の役割を理解することができる。					平塚 典子 (2h)		
	7 認知症に対する作業療法の実際	認知症対象者に関する作業療法の取り組みの実際について知り、作業療法士の役割を理解することができる。					山内 正美 (2h)		
	8 ・摂食嚥下とは何か ・摂食嚥下障害の病態、原因、検査・評価、リハビリテーションについて	・摂食嚥下障害に関係する諸器官の解剖・生理について理解し、基本的なメカニズムについて説明できる。 ・摂食嚥下機能の検査、診断、評価からリハビリテーション方法の概要、チーム医療について理解する。					武田 一貴 (2h)		
授業形態	講義 演習								
教科書	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学第4版 医学書院 認知症のある人の生活と作業療法 第3版 三輪書店 地域作業療法学 医歯薬出版株式会社								
参考書	適宜紹介する。								
評価方法	試験:棚瀬(80.0%)、レポート:平塚(6.7%)、山内(6.7%)、武田(6.7%)								
授業時間外の学習	授業前には関連科目の復習を行い、授業後には行動目標が達成できるよう復習を行うこと。								
履修上の留意点	高齢期作業療法治療学、地域作業療法学等の履修内容が基礎となっていることを理解し講義に臨むこと。								
担当者の実務経験	病院での作業療法および言語聴覚療法に従事、地域生活支援における実務経験あり								